

二 特集二

幼稚園教育要領における「健康」の領域とICF-CYの適合性に関する検討

—幼児教育におけるICF-CY活用のために—

堺 裕*・田 中 浩 二**・徳 永 亜希雄***

(*帝京大学) (**東京成徳短期大学) (***)教育支援部)

要旨：目的：本研究の目的は、幼稚園教育におけるICF-CY活用の手がかりを模索するための第一歩として、幼稚園教育要領の5領域の内の健康に関する内容とICF-CYカテゴリーの適合性を検討することである。方法：ICFリンキングルールを参考にして、幼稚園教育要領解説に示されている健康に関する記述とICF-CYカテゴリーを適合させた。結果：幼稚園教育要領解説の健康に関する記述とICF-CYカテゴリーを適合させた結果、心身機能で10個のカテゴリー、活動・参加で66個のカテゴリー、環境因子については12個のカテゴリーが当てはまった。考察：幼稚園教育要領において定められた領域の一つである健康とICF-CYの間には、一定の適合性が認められた。幼稚園教育要領解説に示される健康の内容は子どもの基本的生活習慣に関する事項が中心であり、本研究において適合したICF-CYカテゴリーの多くは活動・参加で占められていた。この適合性の結果により、幼児教育におけるICF-CY活用の可能性が期待された。今後、よりの確なリンキングルールを確立していくことと健康以外の領域についても適合性の検討が必要である。

見出し語：幼稚園教育要領、ICF-CY、適合性、幼児教育、健康

I 問題と目的

幼稚園は学校教育体系の一環として学校教育法の中に組み込まれた学校の一つに位置付けられている。幼稚園で実施される教育の方向性を示すものとして幼稚園教育要領が規定されており、1956年の発刊以降、2008年までに4回の改訂が行われている。幼稚園教育要領では、幼児期の特性や幼稚園教育の基本、教育課程や指導計画の作成に関することと併せて、健康、人間関係、環境、言葉、表現の5つの領域について教育内容のねらいや内容が示されている。これら幼稚園教育要領の内容をより具体的にするために、幼稚園教育要領解説が刊行されている。第4次改訂となる2008年の幼稚園教育要領および幼稚園教育要領解説の改訂では、①発達や学びの連続性を踏

まえた幼稚園教育の充実、②幼稚園生活と家庭生活の連続性を踏まえた幼児期の教育の充実、③子育て支援と預かり保育の充実、の3点を改訂のねらいとしており、①および②では子どもの発達や学び、さらには生活の連続性を踏まえた教育実践の充実・強化を目指している。加えて、幼稚園教育の基礎となる教育課程の編成や指導計画の作成においても、幼児期の特性を踏まえた教育実践が求められているところであり、いずれにしても子どもの発達・成長の理解、生活実態の把握が不可欠な要素となっている。

障害のある幼児児童生徒への教育である特別支援教育は、全ての学校において実施されるものであり（文部科学省初等中等教育局長、2007）、幼稚園もその範疇に含まれる。幼稚園教育要領においても、障害のある幼児の指導に関する留意事項が述べられている（文部科学省、2008）。近年、幼

児教育や保育の現場で多くの関心が寄せられている学習障害（Learning Disability; LD）や注意欠陥／多動性障害（Attention Deficit Hyperactivity Disorder: ADHD）、広汎性発達障害（Pervasive Developmental Disorder; PDD）などの発達障害の理解や支援でも、子どもの状態の把握や生活状況の理解が重要とされている。

このように、幼稚園教育における子どもの様々な側面の理解の重要性が高まる一方、理解や実態把握に対する具体的な方法・方策については個々の幼稚園や保育者が試行錯誤の中で実践しているのが現状である。

特別支援学校の学習指導要領等の解説には、障害による学習上又は生活上の困難について、ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health）との関連で捉えることについて述べられている。したがって、子どもの様々な側面の実態を把握するためのツールとして、ICFおよびその児童版であるICF-CY（children & youth version）の活用が考えられる。ICFおよびICF-CYが提示している、心身機能や身体構造、活動や参加の分類並びに個人の生活機能が健康状態と背景因子（環境因子や個人因子）との間の相互作用あるいは複合的な関係であるという見方を活用し、ICFおよびICF-CYカテゴリーから得られる情報を組織化していくことは、幼稚園での教育も含めて、保育や子育て支援など子どもに関する様々な場面で有益であると考えられる（田中、2007）。

幼児教育の分野におけるICFあるいはICF-CYの活用や研究の取組状況について目を向けると、例えば、子どもの姿や保育の状態について、ICFモデルを用いて実態把握していくという取組は、少数ではあるが存在する（ラボム2007、徳江他2001）。しかし、ICFおよびICF-CYのカテゴリーを用いて、既存の幼稚園教育要領をはじめとするガイドライン等との適合性を検討した研究は見当たらない。適合性（compatibility）とは、もともとリハビリテーション医療の中で、ICFのカテゴリーを活用するために、既存の評価尺度の項目とICFのカテゴリーとを結び付けることの必要性から用いられた用語であるが（Stucki, Ewert, & Cieza, 2003）、教育分野の中

でも、適合性は特別支援教育におけるICFの活用を図るうえで有効な観点の一つとして検討されている（堺2005、堺2008）。

本研究では、幼児教育の分野におけるICF-CY活用の構築を目指し、その前段階として必要とされる幼稚園教育要領とICF-CYとの適合性を検討することを目的とした。具体的には、ICFが生活機能と障害の分類であるとともに、健康の構成要素の分類であるということから、幼稚園教育要領で示される5つの領域の内、健康に関する領域との適合性を検討した。

Ⅱ 方法

幼稚園教育要領解説で示される健康に関する10項目の解説とICF-CYの適合性を検討するにあたり、Cieza, Geyh, Chatterji, Kostanjsek, Ustün, & Stucki（2005）によるICFリンキングルール（ICF linking rules）を参考にして、幼稚園教育要領とICF-CYカテゴリーをリンクさせた。

幼稚園教育要領解説の健康に関する10項目の解説の記述はそのままに用い、ICF-CYは第1レベルの分類から第4レベルの詳細分類までのカテゴリーの中から、最もあてはまりの良いと考えられるカテゴリーを用いた。これは、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編とICF-CYチェックリストの適合性を検討した先行研究により（堺、2012）、最も良くあてはまるICF-CYカテゴリーとリンクさせるためには、各レベルのカテゴリーを柔軟に使用したほうが良いと考えられたためである。

ICF-CYの中の「その他の特定の」と「詳細不明の」のカテゴリーは使用しなかった。最もよくあてはまるICF-CYカテゴリーを決めることが出来なかった語句や文章には、r（rethinking）の記号を割り当てた。第1レベルや全般的な意味内容を示す語句や文章には、g（general）の記号を割り当てた。「・・・等」という記述の中の「等」に含まれていると考えられる内容についてはリンクさせなかった。個人因子を示している意味内容には、pf（personal factor）の記号を割り当てた。診断名やICFにおける健康状態を示している場合は、hc（health condition）の記号を割り当てた。身体構造のカテゴリーとリンクさ

せることは行っていないが、身体構造を示す語句には、s (structure) の記号を割り当てることとした。

Ⅲ 結果

幼稚園教育要領解説の健康とICY-CYカテゴリとをリンクさせたことによる適合性の結果を表1～10に示した。各表には、幼稚園教育要領解説の健康に示されている10項目の記述とリンクしたICF-CYカテゴリを段落ごとに示している。抽出した語句や文章は下線にて示した。下線で示した文章の中に、さらにICF-CYカテゴリとリンクする語句がある場合は二重下線とした。下線および二重下線の右端に半括弧付きの数字またはr, g, pf, hc, sの記号をつけた。半括弧付きの数字がついた語句や文章にリンクしたICF-CYカテゴリに同じ半括弧付きの数字をつけて示した。

幼稚園教育要領解説の健康の「(1) 先生や友達と触れ合い、安定感を持って行動する」について、ICF-CYカテゴリの心身機能で「b152情動機能」, 「b1266確信」など4個, 活動・参加では「d2054活動水準を適合させること」, 「d810就学前教育時の生活や課外活動」など6個, 環境因子では「e3支援と関係」と「e360その他の専門職」の2個が適合した(表1)。

「(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす」について、ICF-CYカテゴリの心身機能との適合は認められなかった。活動・参加では「d880遊びにたずさわること」, 「d4552走ること」など7個が、環境因子では「e11520一般的な遊び用の製品と用具」の2個が適合した(表2)。

「(3) 進んで戸外で遊ぶ」について、ICF-CYカテゴリの心身機能では「b1263精神的安定性」, 活動・参加では「d815就学前教育」や「d816就学前教育時の生活や課外活動」など5個が、環境因子では「e360その他の専門職」と「e11520一般的な遊び用の製品と用具」の2個が適合した(表3)。

「(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む」について、ICF-CYカテゴリの心身機能とは適合しなかった。活動・参加では「d880遊びにたずさわること」と「d7500友人との非公式な関係」の2個が、環境因子では「e360その他の専門職」および「e11520一般

的な遊び用の製品と用具」の2個が適合した(表4)。

「(5) 先生や友達と食べることを楽しむ」について、心身機能の「b1263精神的安定性」と「b152情動機能」の2個, 活動・参加では「d550食べること」や「d880遊びにたずさわること」, 「d550食べること」など10個が、環境因子では「e360その他の専門職」が適合した(表5)。

「(6) 健康な生活のリズムを身に付ける」については、ICF-CYカテゴリの心身機能の「b134睡眠機能」, 活動・参加の「d815就学前教育時の生活や課外活動」と「d2504活動水準を適合させること」の計3個が適合した(表6)。

「(7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする」について、ICF-CYカテゴリの心身機能では「b1266確信」, 活動・参加では「d810就学前教育時の生活や課外活動」, 「d5100身体の一部を洗うこと」など8個, 環境因子では「e360その他の専門職」の1個, 計10個が適合した(表7)。

「(8) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動する」について、ICF-CYカテゴリの心身機能と環境因子では適合しなかった。活動・参加では「d816就学前教育時の生活や課外活動」, 「d740公的な関係」, 「d7500友人との非公式な関係」など、7個が適合した(表8)。

「(9) 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う」について、ICF-CYカテゴリの心身機能および環境因子では適合しなかった。活動・参加では「d570健康に注意すること」, 「d5100身体の一部を洗うこと」, 「d5201菌の手入れ」など10個が適合した(表9)。

「(10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する」については、ICF-CYカテゴリの心身機能の「b152情動機能」, 活動・参加の「d816就学前教育時の生活や課外活動」, 「d571安全に注意すること」など9個, 環境因子の「e150公共の建物の設計・建設用の製品と用具」および「e11520一般的な遊び用の製品と用具」の2個, 計12個が適合した(表10)。

幼稚園教育要領解説の健康に関する10項目の記

表1 「(1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する」とICF-CYの適合性

心身の健康に関する領域「健康」	ICF-CY カテゴリー		
(1) 先生や友達と触れ合い、安定感を持って行動する	心身機能	活動・参加	環境因子
幼児pfは周囲の大人から受け止められ、見守られている1)という安心感2)を得ると、活動への意欲3)が高まり、行動範囲も広がっていくr。幼児pfが安定感rをもって行動し、生き生きと活動に取り組む3)ようになるためには、幼稚園生活の様々な場面4)で、幼児pfが自分は受け止められているという確かな思いをもつこと5)が大切である。特に、入園当初pfは家庭から離れて初めて集団での生活を経験すること4)による緊張2)や不安2)が高い。教師は一人一人の幼児pfとかわりながら、幼児pfがどのようにして安定感rをもつようになっていくのかをとらえ、幼児pfの心のよきところ6)となるようしっかりと幼児pfを受け止めなければならない7)。教師との信頼6)関係を結ぶこと8)ができた幼児pfは、自分から興味や関心のあるものにかかわり9)、次第に友達と共に過ごす10)楽しさや喜びを味わう2)ようになる。 このようにして得た安定感rは、心の健康を育てるr上で重要であり、幼児pfが自立の方向に向かっていくr上でも欠くことができないものである。心と体の調和rをとりながら健康な生活が営まれていくことrに留意しつつ、一人一人の幼児との信頼1)関係を築いていかなければならない。	2) b152情動機能 5) b1266確信 6) b1266信頼性	3) d2504活動水準を適合させること 4) d810就学前教育時の生活や課外活動 8) d740公的な関係 9) d2502人や状況への接近 10) d7500友人との非公式な関係	1) e3支援と関係 7) e360その他の専門職
	1) b1266信頼性	2) d740公的な関係	

表2 「(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす」とICF-CYの適合性

心身の健康に関する領域「健康」	ICF-CY カテゴリー		
(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	心身機能	活動・参加	環境因子
幼児期は身体諸機能が著しく発達する時期であるが、幼児は自発的にそのとき発達していく機能を使って活動する傾向pfがあるといわれている。そして、その機能を十分に使うことrによってさらに発達が促されていく。したがって、幼児pfの興味rや能力gなどに応じた遊び1)の中で、自分から十分に体を動かす心地よさを味わうことrができるようにすることが大切である。 そのためには、走ったり1)跳んだり2)投げたり3)といった運動的な遊び4)はもとより、これにとどまらずいろいろな遊びをすること4)が大切である。例えば、室内gで友達とイメージを広げながら大型積み木5)で遊ぶ幼児pfもいるだろう。偶然出会った自然の変化gに関心もち、それらに触れながら遊ぶ幼児pfもいるだろう。砂場rでのダム作りに集中し、水をくみに水場rとの往復を繰り返す幼児pfもいるだろう。このような、いわゆる運動的な遊び4)以外であっても、幼児pfがその活動に興味や関心rをもち、自ら心を弾ませて取り組んでいる場合には、体も弾むように動きr、そこには生き生きとした姿が見られる。 運動的な遊び1)か否かを問わず、幼児pfの興味rの広がりによって展開する様々な活動を通して、十分に全身を動かしg、活動意欲2)を満足させる体験を積み重ねることが、身体の調和的な発達rを促す上で重要な意味をもつものであることに留意しなければならない。		1) d880遊びにたずさわること	
		1) d4552走ること 2) d4553跳ぶこと 3) d4454投げること 4) d880遊びにたずさわること	5) e11520一般的な遊び用の製品と用具
		1) d880遊びにたずさわること 2) d2504活動水準を適合させること	

述に対して、心身機能についてはのべ10個のICF-CY カテゴリー、活動・参加についてはのべ66個のICF-CY カテゴリー、環境因子についてはのべ12個のICF-CY カテゴリーが適合する結果となった。幼稚

園教育要領に示されている健康に関する10項目すべてについて、いずれかのICF-CY カテゴリーが当てはまっており、特にICF-CY カテゴリーの活動・参加との適合が顕著であった。

表3 「(3) 進んで戸外で遊ぶ」とICF-CYの適合性

心身の健康に関する領域「健康」 (3) 進んで戸外で遊ぶ	ICF-CY カテゴリー		
	心身機能	活動・参加	環境因子
室内gとは異なり、戸外gでは、<u>幼児pfは解放感rを味わいながら思い切り活動することができる。さらに、戸外gでは幼児pfの興味や関心rを喚起する自然環境gに触れたり、思い掛けない出来事と出会ったりすることrも多く、幼児pfは様々な活動を主体的rに展開する。近年、地域gや家庭gにおいて戸外gで遊ぶ1) 経験が不足していることから、戸外gでの遊びの面白さに気付かないまま、室内gの遊びに偏りがちの幼児pfも少なくない。幼稚園1) では、幼児pfの関心rを戸外gに向けながら、戸外gの空気rに触れて活動するようにし、その楽しさや気持ちよさを味わえるようにすることrが必要である。</u> その場合、<u>幼児pfの興味や関心rが自然な形で戸外gに向けられるようにし、幼児pfが進んで戸外gの生活gを楽しむようにしていくことが大切であり、そのために、教師の果たす役割1) は大きい。特に、入園当初pfは、教師と共に行動しようとする気持ちが強いので、教師と一緒に遊びながら、戸外gで様々な事柄に出会ったり、気付いたりして、遊び方や動き方が分かり、次第に安定して活動ができるrようになってくる。さらに、幼稚園生活2) に慣れ、気持ちが安定してくる3) と、幼児pfは自分から周囲の人やものと積極的にかかわるgようになる。幼児pfは、戸外gで走り回ったり4)、飛び跳ねたり5) して、全身を思い切り使って自らの運動欲求rを満たしたり、身近な自然の事物や事象gとかかわって好奇心6) を満足rさせたりして活動するようになる。</u> <u>幼児の年齢pfや生活経験pfなどに考慮しながら、園内gの遊具や用具1) を配置したり、自然環境gの整備をしたりするなどして、幼児pfが進んで戸外gで遊ぶことができるようにするとともに、園庭gばかりではなく、近隣の公園rや広場、野原や川原などの園外gに出掛けることも考えながら、幼児pfが戸外gで過ごすことの心地よさや楽しさを十分に味わうことrができるようにすることが大切である。</u>	3) b1263精神的安定性	1) d815就学前教育 2) d816就学前教育時の生活や課外活動 4) d4552走ること 5) d4553跳ぶこと 6) d1264経験への開放性	1) e360その他の専門職 1) e11520一般的な遊び用の製品と用具

表4 「(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む」とICF-CYの適合性

心身の健康に関する領域「健康」 (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	ICF-CY カテゴリー		
	心身機能	活動・参加	環境因子
心と体の発達を調和的に促すためには、特定の活動に偏ることなく、様々な活動に親しみ、それらを<u>楽しむr</u>ことで心や体を十分に動かすことgが必要である。そのためには、<u>幼児pfの発想rや興味rを大切に自分から様々な活動に楽しんで取り組むようにすることr</u>が大切である。 <u>幼児pfは気に入った活動に出会うと生き生きと繰り返し取り組もうとするr。しかし、次第に興味や関心rが薄れてきても他にやることが見つからずにその活動を繰り返している場合もある。幼児pfの活動への取組の様子を見極めつつ、必要に応じて、幼児pfが取り組んでみたいと思えるような意欲を喚起する環境rを構成したり、取り組んで楽しかったという充実感や満足感rが味わえるようにすることが大切である。このことにより、幼児pfの興味や関心rが広がり、多様な活動gをするようになる。</u> <u>幼児pfが楽しみながら取り組む活動には、身近な環境gにかかわり、試したり、工夫したりしながらr作って遊ぶこと1)、自分が思ったことや考えたことを表現してr遊ぶこと1)、また、戸外gで友達と体を十分に動かしてg遊ぶこと1) など様々なものがある。様々な遊びの面白さに触れ、いろいろな経験を通して、幼児pf自らが積極的、主体的rに選択して遊ぶようにすることが大切である。</u> また、<u>幼児pfがこれらの活動に取り組むに当たっては、一人で取り組む、あるいは、友達と一緒に取り組む、学級全体で取り組むなど様々である。それぞれの活動の特質を生かし、幼児pfがその活動の楽しさを味わうことrができるよう、教師が配慮すること1) が大切である。</u> このように、<u>幼児pfが行う活動には、その内容、活動の場所g、遊具1)の有無やその種類、一緒に活動する幼児2)の人数など、様々である。幼児pfは、様々な活動に取り組み、それぞれの活動を楽しむことrで、心や体を十分に動かし、心と体の調和rのとれた発達をしていく。</u>	1) d880遊びにたずさわること	1) e360その他の専門職 2) d7500友人との非公式な関係	1) e11520一般的な遊び用の製品と用具

表5 「(5) 先生や友達と食べることを楽しむ」とICF-CYの適合性

心身の健康に関する領域「健康」 (5) 先生や友達と食べることを楽しむ	ICF-CY カテゴリー		
	心身機能	活動・参加	環境因子
本来、<u>食べること1)</u>は、人が生きていくために必要なことである。<u>幼児pf</u>は、十分に体を動かして遊び2)、<u>空腹感r</u>を感じるからこそ、<u>食べ物r</u>を食べたときに、<u>満足感r</u>を心と体で味わう。さらに、<u>気持ちが安定し3)</u>、<u>活力がわき4)</u>、積極的にいろいろな活動をするようになるr。このような体験を繰り返すことは、<u>幼児pf</u>が、<u>食べること1)</u>の楽しさや喜びに気が付きr、<u>幼児pf</u>らしい充実した生活をつくり出すg上で重要である。 <u>幼児pf</u>は、まず家族と同じ場で一緒に<u>食事をし1)</u>、<u>幼稚園1)</u>に入って家族以外の人と一緒に<u>食べることを体験する</u>。そのため、初めは、家庭と幼稚園での食事風景が異なることから、戸惑う<u>幼児pf</u>もいるかもしれない。しかし、<u>自分に温かく接してくれる教師3)</u>と一緒に<u>食べること1)</u>で、<u>幼児pf</u>は、くつろぎ、安心して<u>食べるr</u>ようになっていく。その中で、ときには教師や友達と<u>会話4)</u>を交わしたりしながら、一緒に<u>食べるという雰囲気</u>に慣れていき、教師や友達と一緒に<u>食べること1)</u>が楽しめるようになっていく。また、<u>教師や友達とのかかわり5)</u>、<u>6)</u>が深まるにつれて、<u>食べるときも一緒に食べたいと思うようになり</u>、<u>一層食べること1)</u>を楽しむrようになっていく。 <u>幼児pf</u>は、食事の時間以外でも空腹になると<u>食べ物r</u>を<u>食べたりすること1)</u>があるが、<u>幼稚園生活2)</u>では<u>幼児pf</u>の好きなきに<u>食べることができるわけではない</u>。入園当初pfには、<u>幼稚園3)</u>にお弁当rをもって来ていると、<u>幼児pf</u>は<u>楽しみで待ちきれないこともある</u>。教師は、<u>幼児pfの食べたいという気持ちを受け止め</u>、<u>幼児pfの心に寄り添いながら</u>、<u>同じ気持ちをもつ友達とも一緒に昼食の時間を楽しみにする気持ちを共有すること4)</u>が大切である。そのことが、教師や友達と一緒に<u>食べたときの喜び5)</u>につながっていき、このような教師や友達との<u>気持ちのやりとりr</u>の体験を重ねる中で、<u>幼児pf</u>は教師や友達と一緒に<u>食べること1)</u>に期待をもつrようになっていく。	3) b1263精神的安定性	1) d550食べること 2) d880遊びにたずさわること	
		1) d550食べること 2) d815就学前教育 4) d350会話 5) d740公的な関係 6) d7500友人との非公式な関係	3) e360その他の専門職
	1) b152情動機能	1) d550食べること 2) d816就学前教育時の生活や課外活動 3) d815就学前教育	4) e360その他の専門職

表6 「(6) 健康な生活のリズムを身に付ける」とICF-CYの適合性

心身の健康に関する領域「健康」 (6) 健康な生活のリズムを身に付ける	ICF-CY カテゴリー		
	心身機能	活動・参加	環境因子
本来、<u>幼児pf</u>には自立に向けて大切にされなければならない生活のリズムrがある。<u>幼児pf</u>にとって健康な生活は、十分な睡眠1)やバランスのよい食事r、全身を使った活動と休息rなどの生活の流れの中で営まれていく。そして、<u>幼児pf</u>は健康な生活のリズムgを身に付け、<u>自立の基礎r</u>が培われていく。 <u>幼稚園生活1)</u>では、<u>幼児pf</u>のもつ生活のリズムrに沿いながら、活動と休息、緊張感と解放感、動と静などの調和を図ることrが大切である。その際、<u>幼児pfの活動意欲2)</u>が十分に満たされるようにすることも大切である。また、家庭での生活gの仕方が<u>幼児pf</u>の生活のリズムrに大きく影響するので、<u>入園当初pf</u>は一人一人の生活のリズムrを把握し、それらに<u>応じながら</u>、遊ぶ時間や食事の時間などに配慮することも必要である。特に、3歳児pfの場合は、一人一人のもつ生活のリズムrが異なることに配慮し、きめ細かな指導が必要である。 さらに、保護者に<u>幼児pf</u>が健康な生活のリズムを身に付けることの大切さを伝え、家庭での生活の仕方などについての理解を促し、<u>家庭と十分な連携r</u>を図ることも必要である。	1) b134睡眠機能	1) d816就学前教育時の生活や課外活動 2) d2504活動水準を適合させること	

表7 「(7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする」とICF-CYの適合性

心身の健康に関する領域「健康」	ICF-CY カテゴリー		
(7) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	心身機能	活動・参加	環境因子
幼稚園生活1) の中では食事をする前に汚れた手を洗ったり2)、汗をかいたときに服を着替えたりする3)。このような幼稚園生活1) の自然な流れの中で機会をとらえて、例えば手が汚れたまま食事をする和不潔なので手を洗おうというように、幼児pf自身が必要性に気付きr、自分でしようとする気持ちrがもてるように援助することが大切である。幼児pfは、教師との温かいつながり4) の中で、適切な援助を受けることによって、生活に必要な活動を次第に自分でしようとするrようになり、自立へと向かう。その際、毎日繰り返し行うことによって習慣化rし、心地よさや満足感がもてるようにすることrも大切である。		1) d816就学前教育時の生活や課外活動 2) d5100身体の一部を洗うこと 3) d5700身体的快適性の確保 4) d740公的な関係	
特に、家庭生活gと幼稚園生活2) が異なることから、入園当初pfは戸惑いrが大きく、一人一人の幼児pfの実情に応じたきめ細かな対応が必要である。		2) d816就学前教育時の生活や課外活動	
幼児pfは、友達とのかかわり1) が深まると、友達の行う姿を見たり2)、一緒に行ったりして、生活に必要な様々な習慣rや態度rを身に付けていくので、一人一人の行動が他の幼児pfにとっても意味のあるものとなるよう、よりよい集団での関係1) を育てることも大切である。		1) d7500友人との非公式な関係 2) d110注意して視ること	
なお、幼児pfは、一度身に付けたと思われる基本的な生活行動がくずれることがある。これらは、多くの場合、必要な行動であることが分かっている遊び1) に熱中するあまり、その行動を省略してしまうからであり、必ずしも全く生活行動が崩れたわけではない。このようなときには、その都度、状況に応じた教師の適切ななかかわり2) が必要であり、このような過程を経ていくことで、幼児pfは着実に基本的な生活行動rを身に付けていく。		1) d880遊びにたずさわること	2) e360その他の専門職
このようにして形成された習慣rや態度rは、健康な体を育てる上で重要であるばかりでなく、自信1) や意欲rにつながるものである。一人一人の幼児pfが家庭でどのような生活gをしているのか実態をとらえ、家庭との連携rを密にしながら実情に応じて指導していくことが大切である。	1) b1266確信		

表8 「(8) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する」とICF-CYの適合性

心身の健康に関する領域「健康」 (8) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する	ICF-CY カテゴリー		
	心身機能	活動・参加	環境因子
<u>幼稚園生活1)</u>には、<u>所持品の管理r</u>をしたり、遊んだ後を片付けたりするrなど、皆が一緒に過ごすために身に付けることgが必要な生活の仕方がある。これらについて、そのやり方や必要性に気付き、自分たちの生活の場を生活しやすいように整える体験を繰り返しながら、次第に見通しをもって行動できるようになっていくことrが大切である。 入園当初pfは、<u>幼児pfは、教師と一緒に行動1)</u>したり、教師をモデルにしたりしてr、生活に必要な行動を一つ一つ獲得していく。やがて、<u>友達と一緒に活動する2)</u>という経験を通して、集団の中で生活する<u>楽しさや充実感を感じr</u>ながら進んで準備rをしたり、片付けたりするrようになり、幼稚園生活を自立的に送ることができるようになっていく。 これらの生活行動を獲得していくためには、<u>幼稚園生活1)</u>全体が<u>幼児pf</u>にとって、楽しく脈絡のあるものでなければならない。例えば、十分に遊んだ後の満足感rが次の活動への期待感rを生み出し、片付けrなどの必要性が<u>幼児pf</u>に無理なく受け止められるr。<u>幼児pf</u>の活動が<u>幼児pf</u>の必要感に基づき自発的に展開されるものであれば、<u>幼児pf</u>の意識の中でつながりが芽生え、<u>幼稚園生活1)</u>の<u>大まかな予測r</u>をもてるようになり、<u>幼児pf</u>は、時間の流れや場の使い方などを予測して生活できるようになっていく。そして、<u>幼児pf</u>自身が、次第に生活に必要な行動について<u>見通しr</u>をもち、自立的に行動できるようになっていく。そのためには、<u>幼児pf</u>がゆとりをもって<u>幼稚園生活1)</u>を送れるようにすることが大切である。 片付けrなどの基本的な生活行動は、まず家庭の中で獲得されるものであり、<u>幼児pf</u>一人一人の家庭での生活経験をとらえて指導を考えるなど<u>家庭との連携r</u>を図ることが大切である。同時に<u>幼稚園1)</u>でも、例えば、<u>幼児pf</u>の動線に配慮した手洗場2)や遊具の収納など<u>幼稚園の生活環境g</u>に十分配慮することも必要である。		1) d816就学前教育時の生活や課外活動 1) d740公的な関係 2) d7500友人との非公式な関係 3) d816就学前教育時の生活や課外活動 1) d816就学前教育時の生活や課外活動 1) d815就学前教育 2) e1501公共の建物内の設備の利用を容易にする設計・建設用の製品と用具	

表9 「(9) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う」とICF-CYの適合性

心身の健康に関する領域「健康」	ICF-CY カテゴリー		
(9) 自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う	心身機能	活動・参加	環境因子
日常生活gの中で起こるけがや病気hc、健康診断など様々な機会をとらえて、<u>幼児pfなりに自分の体を大切にしなければならないこと1)</u>に気付かせ、<u>手洗い2)</u>、<u>歯みがき3)</u>、<u>うがい1)</u>など病気にかからないために必要な活動を自分からしようとする態度を育てること1)が必要である。		1) d570健康に注意すること 2) d5100身体の一部を洗うこと 3) d5201菌の手入れ	
入園当初pfにおいて、<u>自分に温かく接してくれる教師と一緒に行動すること1)</u>によって、<u>幼児pfは、汚れた手を洗ったり2)</u>、<u>汗の始末をしたりする3)</u>ようになり、その気持ちよさを感じ取っていく。さらに、健康診断や身体測定などの機会を通して、自分の成長を喜びながら自分の体に関心をもつrように働き掛けることにより、<u>病気の予防に必要な活動に気付き、これらの活動を進んで行う3)</u>ようになっていく。		1) d740公的な関係 2) d5100身体の一部を洗うこと 3) d570健康に注意すること	
また、健康への関心や態度rは、<u>幼児pfの生活に関係の深い身近な人々と触れ合うことや新聞やテレビ1)</u>などの社会情報rを話題にすることから身に付けていく場合もある。<u>幼稚園生活2)</u>の中で<u>医師など健康な生活にかかわりの深い人々と接したり3)</u>、<u>社会の情報rなどを取り入れたりする機会を工夫していくことも大切である。</u>		1) e560メディアサービス・制度・政策 2) d816就学前教育時の生活や課外活動 3) d740公的な関係	
健康な心と体の状態hcは、一人一人の幼児pfによって異なる。一人一人の幼児pfの実情をとらえ、<u>家庭との連携rを図りながら、健康への関心を高め、病気を予防する態度を身に付けていく1)</u>ようにすることが重要である。		1) d570健康に注意すること	

表10 「(10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する」とICF-CYの適合性

(10) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	ICF-CYカテゴリー		
	心身機能	活動・参加	環境因子
幼稚園生活1)の中で、危険な遊び方や場所、遊具などについてその場に即して気付かせ、状況に応じて安全な行動がとれるようにすること2)が重要である。さらに、交通安全の指導や避難訓練などについては、長期的な見通しをもち、計画的に指導すると同時に、日常的な指導を積み重ねることによって、安全な交通の習慣や災害などの際の行動rの仕方などについて理解させていくことも重要である。 幼稚園生活1)が幼児pfにとって安全であるように、施設設備2)の安全点検に努めることはいうまでもない。その上で、幼児pfが園内のいろいろな場所gや遊具3)にかかわって生み出す様々な遊びの状況を想定しながら、安全に落ち着いて遊ぶことができるように環境gを工夫していくことが大切である。特に、入園当初pfや進級時pfなどにおいては、教師との信頼関係4)を基盤に安定した情緒5)の下で生活できるようにすることが大切である。環境gに自らかかわり、十分に体を動かして遊ぶ6)中で、幼児pfは、次第に危険な場所や遊び方などを知り、どう行動したらよいのかを体験を通して身に付けていく7)。 特に、3歳児pfは大人が予想しない行動をとる場合もあり、様々な状況を予測して安全の確保に配慮することが必要であるとともに、教師と一緒に行動1)しながら個々の状況の中で、幼児pfなりに安全について考え、安全に気を付けて行動する2)ことができるようにする必要がある。 また、幼児pfにとって、交通安全の習慣rを身に付けること、災害時の行動の仕方や様々な犯罪から身を守る対処の仕方1)を身に付けることは、安全な生活を送る上で是非とも必要なことである。安全な交通の習慣rや災害、あるいは不審者との遭遇などの際の行動の仕方1)などについては、幼稚園全体の教職員の協力体制rや家庭との連携rの下に、幼児pfの発達の特性を十分に理解し、日常的な指導を積み重ねていくことが重要である。		1) d816就学前教育時の生活や課外活動 2) d571安全に注意すること	
	5) b152情動機能	1) d816就学前教育時の生活や課外活動 4) d740公的な関係 6) d880遊びにたずさわること 7) d571安全に注意すること	2) e150公共の建物の設計・建設用の製品と用具 3) e11520一般的な遊び用の製品と用具
		1) d740公的な関係 2) d571安全に注意すること	
		1) d2402危機への対処	

Ⅳ 考察

幼稚園教育要領解説に示される健康に関する項目およびその内容とICF-CYカテゴリーをリンクさせることによって、両者の適合性を検討した。その結果、幼稚園教育要領で健康に示される内容とICF-CYの活動・参加の多くのカテゴリーとの適合が確認された。幼稚園教育要領の5領域のうち、健康に関する項目は、食事や排泄といった子どもの基本的生活習慣に関わる内容や、先生や友だちとの人間関係、遊び、危険への察知といった日常生活を営む上での人間としての基礎的な内容が中心となっている。したがって、ICF-CYカテゴリーとの適合において、活動・参加が中心となったと考えられる。同時に、このことは、両者のリンキングが概ね妥当であったことを示している。

一方で、例えば、「心を弾ませる」や「生き生きとした姿」といった語句や文章では最もよくあてはまるICF-CYカテゴリーを決めることが出来なかった。さらにはICF-CYではカテゴリーが設定されていない個人因子と考えられる内容も多く見受けられた。今後、ICF-CYを活用して幼稚園教育要領で示される子どもの状態を客観的に把握するための方策を構築していく際には、幼稚園教育要領で意図する内容とICF-CYカテゴリーのそれぞれの意味を崩さないようにして両者をリンクさせていく方法を検討し、幼児教育分野におけるリンキングルールを確立する必要がある。両者の的確なリンクは、幼稚園教育要領で意図する内容を明確に解釈した上で、ICF-CYカテゴリーの定義に基づいて、その指導内容を定義することができるかどうか吟味することにより、可能になると考えられる。

また、本研究における幼稚園教育要領解説とICF-CYカテゴリーのリンキング作業は、リンキングの経験を有する第一著者が行い、他の著者がICFおよびICF-CYや幼児教育に関する専門職としてリンキング結果の確認を行った。今後、リンキングの過程において、幼児教育やICF-CYに精通した専門家による協議やリンキングの結果の一致率の算出など統計学的な検証も必要である。

Ⅴ おわりに

幼稚園教育要領で健康に示される内容、すなわち、子どもの基本的生活習慣を中心とした内容とICF-CYの活動・参加の多くのカテゴリーとの適合が確認された。今後、幼稚園教育要領および幼稚園教育要領解説で示される内容の評価に加え、すべての子どもの生活機能の状態・実態を、ICF-CYを用いてより具体的に表現することができると期待される。一方で、より適切な適合には若干の課題も抱えていることが示唆され、より良いリンキングルールを確立していくことが必要である。

さらに、本研究では幼稚園教育要領に示される5領域のうちの健康のみを対象としたが、幼稚園教育全体におけるICF-CY活用を構築するためには、人間関係、環境、言葉、表現の4つの領域についても適合性の検討を行うことが必要である。

文献

- Cieza, A., Geyh, S., Chatterji, S., Kostanjsek, N., Ustün, B., & Stucki, G. (2005). ICF linking rules: an update based on lessons learned. *J Rehabil Med*, 37 (4), 212-218.
- 文部科学省初等中等教育局長 (2007). 特別支援教育の推進について (通知).
- 文部科学省 (2008). 幼稚園教育要領. 教育出版.
- 文部科学省 (2008). 幼稚園教育要領解説. フレーベル館.
- 文部科学省 (2009). 特別支援学校学習指導要領解説 (幼稚園部・小学部・中学部・高等部). 海文堂出版.
- ラボム (2007). 園の実践から8—ICFの考え方を保育に—. 学研ラボム, 12月号, 52.
- 堺裕 (2005). リハビリテーション医療におけるICF活用の可能性と特別支援教育への応用. 国立特殊教育総合研究所・世界保健機関 (編), ICF (国際生活機能分類) 活用の試み—障害のある子どもの支援を中心に— (pp142-151). ジアース教育新社.
- 堺裕・佐藤満雄・徳永亜希雄 (2006). 学校現場におけるICF (国際生活機能分類) の活用に関する一考察—ICFと盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領の比較を通じた適合性の検討から—. 帝京大学福岡医療技術学部紀要創刊号, 17-52.

- 堺裕 (2008). ICF-CYを教育に活用する妥当性. 徳永重希雄 (研究代表者), 課題別研究報告書 (平成18年度～19年度) ICF児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究. 国立特別支援教育総合研究所, 43-51.
- 堺裕 (2009). 特別支援教育におけるICF-CYの項目の活用—自立活動の「人間関係の形成」とICF-CYの「対人関係」の適合性の検討に基づいて—. 日本特殊教育学会第47回大会発表論文集, 674.
- Sakai, Y. (2010). The Compatibility between the Activities to Promote Independence in Japanese National Curriculum Guidelines and ICF-CY. Bulletin of Faculty of Medical Technology Teikyo University, Fukuoka, 5, 25-54.
- Stucki, G. Ewert, T., & Cieza, A. (2003). Value and application of the ICF in rehabilitation medicine. Disability and Rehabilitation, 25 (11-12), 628-634.
- 田中浩二 (2007). 就学前の子どもへのICF活用の可能性と意義・課題, 国立特別支援教育総合研究所 (編). ICF及びICF-CYの活用 試みから実践へ—特別支援教育を中心に— (pp26-32). ジアース教育新社.
- 徳江与志子、新井真由美他 (2001). 広汎性発達障害児に対するチームアプローチ—幼稚園訪問を通して—. 群馬保健学紀要, 22, 71-77.

Compatibility between “Health” in the Course of Study for Kindergarten and ICF-CY

SAKAI Yutaka*, TANAKA Koji**, and TOKUNAGA Akio***

(*Teikyo University) (**Tokyo Seitoku College) (***)Department of Educational Support)

Objective: The compatibility between the contents of “health”, one of five domains in the course of study for kindergarten, and ICF-CY categories was investigated as the first step in the practical use of ICF-CY in early childhood education. **Methods:** The description of “health” in the guidelines of the course of study for kindergarten was linked to the ICF-CY categories by referring to the ICF linking rules. **Results:** Ten categories of ICF-CY body functions, 66 categories of ICF-CY activities and participation, 12 categories of ICF-CY environmental factors were linked to the description of “health” in the guidelines. **Discussion:** Description of “health” was highly compatible with ICF-CY categories. Most of the contents of “health” in the guidelines were

basic life habits. Therefore, ICF-CY categories that were linked to “health” consisted mostly of activities and participation categories. These results indicate the possibility that ICF-CY can be utilized in early childhood education. Further studies are needed to establish well-defined linking rules related to the compatibility of the ICF-CY for early childhood education, as well as to investigate the compatibility of ICF-CY categories with domains other than “health” that are related to the educational contents of kindergartens.

Key Words: Course of Study for Kindergarten, ICF-CY, Compatibility, Early Childhood Education, Health Domain